

7月27-28日(月-火)

りんご組

担任名 沖永なつみ

第99回新幼児教育講座

<Cコース 遊びの質を高める>

1日目 「あそびの心深まれ」河邊貴子先生

2日目 「あそび広がれ！」北島尚志先生

今回の研修では1日目にあそびについての理論を学び、2日目には実際に保育者の私たちがあそびを楽しみ実践する中で沢山のことを感じる、という2日間で繋がりが強く学びの多い研修であった。

河邊先生の講習では、Aちゃんが周りのお友達のことを全く気にする様子もなく、ターザンロープを自分の思うように乗れるまで何度も何度も挑戦している映像を見せて頂いた。ターザンロープに乗りたいた子が他にも数人いて列ができています。Aちゃんは思い通りに乗れず試行錯誤している。途中嫌になり中断するが、再び戻ってくる。そこでお友だちがターザンロープに乗ったAちゃんを押してあげると、それが楽しく思うように乗ることができたのか、満足そうにし他の所に遊びに行く。この間、ビデオカメラを撮り続けていたのは担任の保育者で、一言も声を発することはなかった。保育者であれば(少なくとも私だったら)、後ろで待っている子どものことを考え「お友だちが待ってるからそろそろ交代しようか」と声をかけ、嫌がっていたとしてもどうしたら気持ち良く代わってくれるかということを考えて声をかけてしまう。しかし、それではAちゃんにとっての遊びの充実にはならず、全力を発揮している姿、挑戦している姿に対して中断させてしまうことになる。また、映像を見ている中で後ろにいる子が"待っている"と思ってしまうが、その子は待っているという感覚があるのかどうか実際にはわからない。"こんな風になりたい！こんな風にしたい！"と思っている子どもに対して禁止は障害物であり、大人が『見守ること』そして必要なときには『手を差し伸べること』がとても大切だということ学んだ。保育者があそびの中でついつい声をかけてしまう場面や、禁止してしまうような場面もたくさんあるが、子どもの学習能力を信じ辛抱強く見守ってみる、ということ大切にしていきたいと思った。そして『neoteny(子どもらしさ)溢れる大人』になれるように、あそび中では否定はせず、子どもたちの"やってみたい！やってみた！"さら

に、"やろうとしていること"を認めてあげたいと思った。保育者として大切なこれらのことを、わたしは分かっていたつもりでも実際には出来ていなかったことに気づいた。その子が今なにを楽しんでいるのか、なにをしたいのか、なにをしようとしているのか、などをよく見て柔軟な心で考えながらきちんと見守り、必要に応じて声をかけていけるようにしたいと思う。そして自分自身の"わくわくする心"を大切にしながら子どもたちと関わっていきたいと感じた。

北島先生によるあそびの実践は、心から"楽しい！面白い！"と感じられるものだった。とにかく色々な遊びを楽しんだり、イメージを表現したり、わくわくする内容ばかりであった。あそぶとは『やってみたい、いってみたい、なってみたいと感じるものであり、予想外なことがたくさんで、でもその時に子どもたちが考え合意形成を図りルールも自分たちでつくりかえていけるもの』と北島先生がおっしゃっていた。ルールを守り、さらにつくりかえていける。そうやって広がっていく遊びはとても楽しいものであり、そこで子どもたち同士が認め合ったり「それいいね！」と言えることが大切だと感じた。実際に3時間たっぷり遊ぶ中で、「こうしてみたい！」「これはどうかな」という思いを素直に出せること、またそれを認めてもらえることで本当に楽しく、さらに遊びも広がり、没頭できると感じた。様々な失敗が許される子ども時代に子どもたちが心も体も本当に遊び尽くせるように、遊び心たっぷりの大人になれるように保育者として関わっていきたいと感じるのと同時に、自分自身の子ども心やワクワクする心、やってみたい、こういう風にしたい、という気持ちに素直になり子どもたちと横並びになって一緒に楽しみながら保育が出来る人になりたいと思う。

の口開 専垂み研究に参加する一環をやりおしるべき、ナリト